

<p style="text-align: center;">Devotion Guide/ユースマナ</p> <h1 style="text-align: center;">Youth Manna</h1> <p>マルコ1:35 さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。</p>	<p style="text-align: right;">2022/10/3(月)</p> <h2 style="text-align: center;">詩篇138篇</h2> <p>ダビデは、138篇を書きながら、自分の主との歩みを振り返っているのだろうか。「私が呼んだその日にあなたは私に答え、私のたましいに力を与えて強くされました(3)」「まことに主は高くあられますが低い者を顧みてくださる(6)」「私が苦しみの中を歩いても、あなたは私を生かしてくださいます(7)」と。 みんなはいつ、初めてみことばを聞いただろう。神様はどのように、私達の人生に関わってくれたかな？ 【祈ろう】自分にみことばを聞かせてくれた人に感謝のお祈りをしよう！ 「あなたの御手のわざをやめないでください(8)」と私達も祈ろう！</p>	<p style="text-align: right;">2022/10/4(火)</p> <h2 style="text-align: center;">詩篇139篇</h2> <p>●1-4節で、神様は私のことを知っておられると書かれている。どのように知っておられると書かれている？ ●自分が神様に知られていることについて、あなたはどのように感じるかな？ ●自分の存在がどこから来たのか、考えたことはあるかな？聖書は私たちにどのように教えているだろうか。13-16を読もう。</p> <p>自分の弱さ、思い煩い(孤独、不安、恐れ、悲しみ,..)も含めて、神様はあなたを受け入れてくださっている。そして無条件に愛して下さっている！心を開いて神様に何でも祈ってみよう！</p>	<p style="text-align: right;">2022/10/5(水)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル18:1-18</h2> <p>まず、「父が酸いぶどうを食べると、子どもの歯が浮く」ということわざが示される。父が罪を犯すと、子孫が罰を受けることになる、という意味のことわざである。当時のイスラエルでは、これがよく知られていた。この問題点は、今受けている罰の原因が自分たちの罪にあることを認めず、父祖が犯した罪にあると考えてしまうところにある。彼らはそのように考えて責任回避をしていた。 けれども、神は一人一人を見ておられる。この神の前で、私たちは他の人に転嫁できない責任を負う。神は、バビロン捕囚が自分たちの罪の結果であることを示されたのである。 祈り：私があなたの前に正しく歩めますように。罪を犯した時に、それを認めて悔い改めるものでありますように。</p>
<p style="text-align: right;">2022/10/6(木)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル18:19-32</h2> <p>今日の箇所が一番最後のことば、「立ち返って、生きよ」には真の神様の愛を感じる。神様は全ての人の救いを望まれている。 正しい行ないから離れ、不正を行い、悪き道を歩むなら当然その先にあるのは罪ゆえの永遠の死である。(24-26v) 普段の生活で間違った選びをしていないだろうか？学校などどの社会で生きるのにも、悪口や見下し、利己的な選びは当たり前のように存在する。罪の世の中だから当たり前、そう受け入れ自分でもしてしまっていることはないだろうか？ 神様の心を知ろう。本当の愛のある行動をし、立ち返って生きよう！</p>	<p style="text-align: right;">2022/10/7(金)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル19章</h2> <p>▶旧約聖書の『哀歌』はエレミヤが歌ったものと言われているが、今回の哀歌は主がエゼキエルにたくしたものだ。雌獅子やぶどうの木は南ユダ王国のことで、子獅子は滅亡時代の王たちを指している(1-9)。 ▶悪行のすえ、主のさばきにより、もはやぶどうの木には強い枝がなくなった。しかし、神様は後に、切り倒された根株から新芽を生えさせてくださる(イザヤ11:1)。主イエスキリストである。ここに希望がある。 ▶エゼキエルを読むと、主の民が主の戒めをことごとく破ったことがわかる。私たちに与えられている新しい戒めは、主が愛したように互いに愛し合うことだった。私たちは今日、その戒めにどのように従おう？</p>	<p style="text-align: right;">2022/10/8(土)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル20:1-26</h2> <p>今日は長老たちがエゼキエルのところに来て、神様のことばを求めるところだね。ちょうどユダの王様エホヤキンがバビロンに連れていかれた年だよ。 神様のことばは、「あなたの求めに応じない」という厳しいものだった。その裏には歴史的に民が神様に従わなかった罪があったんだ。神様が民が生きるために与えた掟を守らず、偶像礼拝を続けてしまった罪、背いてきた罪に神様は怒りをもった。でもそれよりも深い愛で、手をくださすのを思いとどまってく下さっているね。 「神様はどんなお方か」君が今日の箇所から感じたことをメモしてみよう！</p>	<p style="text-align: right;">2022/10/9(日)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル20:27-49</h2> <p>神様は、今の世代が先祖たちの罪を改めようとせず、そのまま引き継いでいることを非難された。イスラエルは神の民であるのに「木や石を拜んでいる異邦の民、国々の諸属のようになろう」と願った。神様はその罪を犯している民に対して「ほとぼしる憤り」を表したが、その憤りは民を滅ぼすためではなく、彼らを治め、散らされている国々から彼らを集めるためであった。これは、バビロン捕囚からの帰還の預言であると同時に、終末的な救済の預言でもある。神様のなさることはすべて深い愛に裏打ちされており、憤りの背後に私たちが救う愛がある。神様はご自身に背を向けている民に向かって「偶像のところに行って仕えるがよい」と告げたが、その目は将来の救いを見つめていた。今は神様に背を向けている彼らも「後には必ず」神様に聞き、御名を汚さず、神様に仕えるようになり、そんな彼らを神様が喜んで受け入れてくださる時が来る。神様の厳しいことばの背後にある真実の愛に目を留めたい。</p>